



- ①②「医療ソーシャルワーカーについて」
- ②③「岩手中部地域リハビリテーション広域支援センターの活動紹介」
- ③④「知っ得と便利「追跡調査結果について」」



「医療ソーシャルワーカーについて」

医療連携部総合相談科長 上田 大介

2023年4月26日付の岩手日報に「患者社会復帰の味方・いわてリハビリテーションセンターの医療ソーシャルワーカーの取り組み」の取材記事を掲載していただきました。たくさんの方々が読んでくださったようで「記事見たよ」「大きく載ってたっけね」など外来の患者さんやご家族、関係者の方々が声をかけてくださいました。今回はその内容について簡単に紹介いたします。

ソーシャルワーカーというのは社会福祉領域における相談援助専門職の総称です。中でも医療分野で働いている人達は「医療ソーシャルワーカー」と呼ばれています。岩手県内ではおよそ300人が医療機関や老人保健施設等で勤務しています。医師や看護師はよくTVドラマや映画にも出てくるので、イメージがしやすいと思います。一方で医療ソーシャルワーカーは一般的にはほとんど知られていません。おそらく病院に関わりのない方はその存在すらわからないでしょう。ですが近年医療制度改革や地域包括ケアシステムが推進される中で入院から自宅退院そ



して社会復帰まで社会福祉の立場から患者・家族を支える医療ソーシャルワーカーの重要性と存在感が増してきています。

医師や看護師、療法士が行う「病気や症状への対処」とは異なって、医療ソーシャルワーカーの役割は患者や家族と面談をして、その多様なニーズに寄り添うことです。なかには病気や交通事故の後遺症で重い障害が残る人もいます。何かが出来なくなっても残った能力を生かして、何が出来るかを一緒に考えていきます。以前と同じように自宅で一人暮らしが出来るようになるか、会社に戻って働けるようになるか。患者の家族構成や年齢、状況によって悩みは一人一人違います。医療ソーシャルワーカーはそんな時に社会福祉制度や退院後のサービス利用の相談に応じる相談援助専門職です。国家資格である社会福祉士の資格を持って入院機能のある病院のほとんどの配置されています。

病院に入院されてくる方はまさか自分が病気になるとは思っていません。ほとんどの方が突然病気になり、入院生活を余儀



なくされ、医療的な問題だけでなく、医療費の支払い等の経済的な問題、復職が出来るか等の社会的な問題など多くの課題が一挙に出てきます。そんな時に一緒に問題の整理をしたり、社会福祉制度等を活用して解決方法を考えていくのが医療ソーシャルワーカーの役割です。また退院がゴールではなく、その後の社会生活や復職など社会復帰に向けて長期的なビジョンを持って関わっていきます。そ

のためケアマネジャーや障害者職業センターなどの関係機関との協働や病院間のネットワークづくりも重要な役割となっています。

病気になると誰でも先々の心配をしたり不安な気持ちになると思います。そんな時は病院の中にある医療相談室を訪ねてみてください。きっと医療ソーシャルワーカーがあなたの心に寄り添い相談にのってくれると思います。

岩手中部地域リハビリテーション

広域支援センターの活動紹介

岩手中部地域リハビリテーション広域支援センター 総合花巻病院 上川 亜矢

中部地区（北上市・花巻市・西和賀町・遠野市）における地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受けている総合花巻病院から活動を紹介させていただきます。

中部地区は北上済生会病院と総合花巻病院が2年ごとに事務局を交代するという他の圏域にはないシステムで運営しているため、当総合花巻病院は2年ぶりとなる令和3年度からセンター病院としての活動を再開いたしました。

徐々にコロナの影響も減少傾向にはありましたが、令和3年度も予断を許さない中、このような状況下でも途切れない地域支援を続ける方法を模索する1年となりました。

特に人を集めることや他施設に訪問することが規制されている中、どのように支援していくべきか、地域のニーズはどこにあるのか、情報収集もままならない状況下ではあり十分な活動とまではいかないまでもオンラインの利用や紙媒体での情報提供などできることから始めております。その中の一部をご報告いたします。

【リハビリテーション関連職種研修会の開催】

令和4年10月8日「介護現場の排泄ケア実践ポイント研修会」を、ZOOMを利用したオンラインで開催しました。DASUケアLAB代表の大関 美里先生を講師に迎え、「単なるおむつ交換」から「お互いが心地よいケア」というテーマで2時間半、お話しいただきました。実践にすぐに取り入れたいくなるお話や感動のエピソード、時には笑いもあり、時間を忘れるほどの充実した内容でした。日々の介護や臨床に生かすのはもちろんのこと、自分自身の身体に向き合う時間にもなりました。日々避けては通れない排泄の問題を今後も取り上げていきたいと思っております。



【リハビリテーション自主トレーニングメニュー
作成、配布】

「自宅で手軽にできる運動が知りたい」「介護現場で手軽に運動指導するための情報が欲しい」という要望が寄せられ、花巻市と協力し「リハビリテーション自主トレーニングメニュー」を各疾患別に写真付きで作成。毎年少しずつ改定を加えながら、市役所の窓口においていただいたり、広報に掲載してもらっています。令和5年度は動画の配信などさらに

使いやすいものに形を変えていく予定です。



岩手中部地域リハビリテーション広域支援センター

住 所：025-0082 花巻市御田屋町4-56 総合花巻病院内

担当者：リハビリテーション部 上川 亜矢

連絡先：TEL：0198-23-3311（代表） FAX：0198-24-8163

Mail：info@hanamakihospital.or.jp



シリーズ
知って便利

追跡調査結果について

作業療法士 橋本 彩花

当センターの自動車運転の評価について、これまで3回に分けてお伝えしてきました。最終回となる今回は、自動車運転の評価を終えた患者さんを対象とした、追跡調査の結果についてご紹介します。

当センターでは2019年と2022年に追跡調査を実施しており、2019年の調査では、退院後の患者さんの約4割がヒヤリハット（ヒヤリとする場面）を経験していることがわかりました。

そこで、入院中の患者さんに、運転再開のリスクについてより意識していただくことを目的として調査結果を掲示し、さらに、退院後の患者さんが実際に経験したヒヤリハット事例の紹介をするなどの取り組みを行いました。

これらの取り組みを経て、2022年に183名を対象に再度アンケート調査を実施し、131名の方から回答をいただきました。調査内容は以下のとおりです。

- (1) 公安委員会への連絡・相談の有無と結果
- (2) 運転再開の有無
- (3) 運転目的
- (4) 運転頻度と時間
- (5) 運転再開後の事故、交通違反、ヒヤリハットの有無
- (6) 病前の運転との違い
- (7) 運転時に気を付けている事



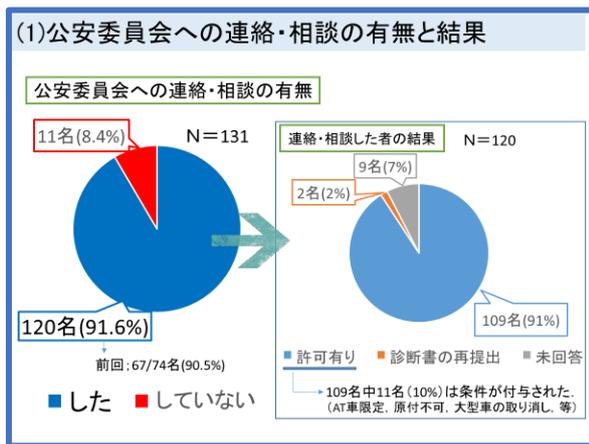
今回は(1)、(2)、(5)の結果についてご紹介します。

まず、(1)の結果からは、ほとんどの方が当センターで推奨する手順を踏んで運転を再開されていることが分かりました(図1)。

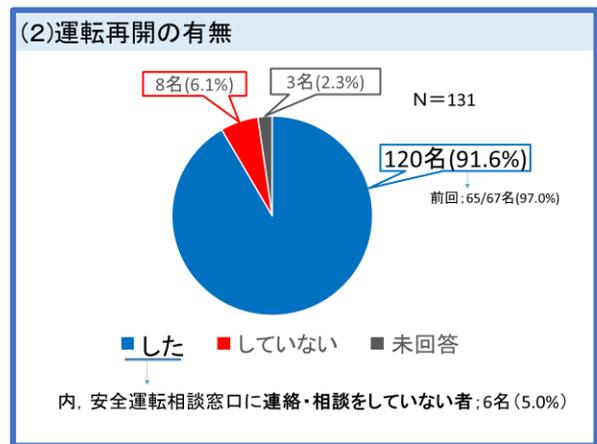
次に(2)で、運転を再開したと回答した120名中(図2)、交通事故・交通違反を経験した方は、それぞれ3名と1割にも満たず、また、ヒヤリハットを経験した方は35名と約3割であることが(5)で分かりましたが、前回の調査時より約1割減少していました(図3)。

このような結果につながった要因として、2019年の結果を受けて患者さんに運転再開のリスクについて、実例をもとにより具体的に提示したことで、患者さんの安全運転に対する意識が高まったことが予測されました。

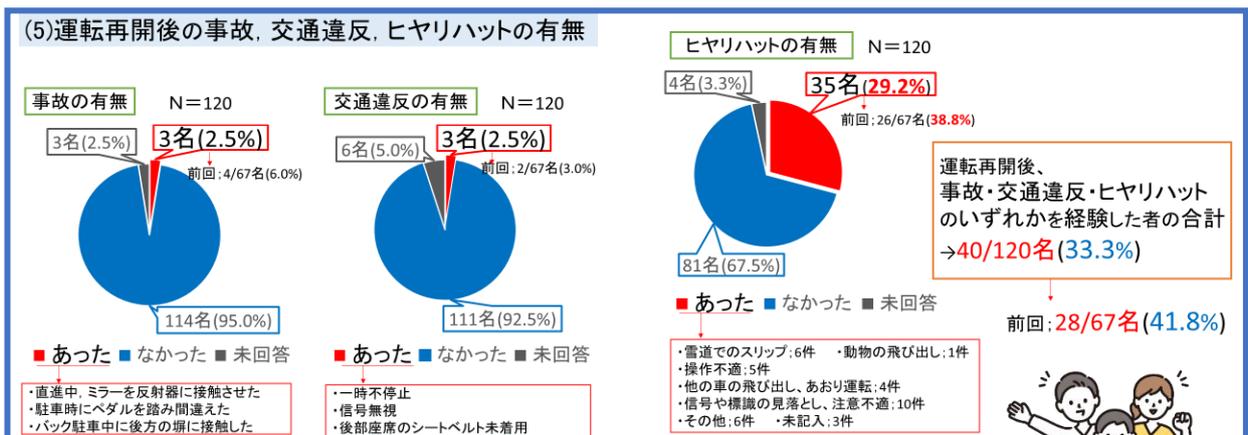
これまで、自動車運転は便利である一方で危険と隣り合わせであることをお伝えしてきました。自動車運転再開が可能かを判断するための検査や運転シミュレータでの評価は、時間もかかり厳しくもあると思います。しかし、皆さんの命を守るための大切な手順です。アンケート結果からはヒヤリハットの経験率の減少が見られましたが、事故や交通違反、ヒヤリハットを経験されている方はまだいらっしゃいます。今後も関係機関等と連携し、皆さんが安全に自動車運転の再開ができるよう取り組んで参ります。



(図1)



(図2)



(図3)



<年4回発行>

発行●いわてリハビリテーションセンター 所在地●〒020-0503岩手県岩手郡雫石町七ッ森16番地243

TEL019-692-5800 FAX019-692-5807

Eメール●info@irc.or.jp インターネットホームページ●<http://www.irc.or.jp>